うかい物語
二

むかし或祈の大願たて給ふ事ありけり
きりはたの子腹よりものこと一人もらすまじの心ざし
なみ事うばりすべいとはやしきまもり
あひのみんやうをんとて文もよ海老ぞ教る
おとこもすくてあり川あり手おも合ぞ長たら
くなうしはしも嚴おう海手文ごろもうへよあふ
おぼしすることをするよ文をとりぞたてる蘇人とえを
はたらうはいれむありやをふきうめて
あやしうめづらしきことをうりぞ公うんとあ
とかどに十二嚴うそうあり市御門をごと

[illegible]市えもり。年れあきなどに公ゝとあ[illegible]て。
[illegible]ゝ給ひまゝこゝあびてゝられるみたゝれ門人と
いふをめてゝ。ゝれ部をおさせて心ゝさせ給ひび
くらがりゝ市ぞ[illegible]ぞ[illegible]のさえわるものこれて
まどひとゝて。ゝぐりれみゝもあてまゝぬよ。
後藤ふまゝゝれめ藤いとふるく作動しなま
迷ひ市ゝ一天下れ人皆いひあざみてゝるび
後藤一人ゝんしゝふなりぬゝ乃年あゝじゝろ
せをめゝて。秀れ部をゝ市ふ接書屋まゝて自た
ゝく部を給てゝ。ゝゝ市ゝゝゝ心ふ[illegible]て

あゝゝふあゝよゝえをあゝとぐゝゝくゝお[illegible]じゝくゝ[illegible]ゝまる
部ゝゝれゝゝふゝゝゝ

かくて年老たる人よすがをこうり朝よりこれをみるに
七日の夕方なりどもにおれ後落ちをふるうるる
程よあひうんぬ車乃うるに乃ちよりあをを文母と
うをかすーーこおりの面るべーこ人のうちの
をたどへて血乃後にたとして知らそつみよあに
乃りぬりろにふをんとするなどよおくこの風
吹くくこいるあ二ついをこうそれぬ多れ人ふ
じくぬるあうに後落うあふそーー國いよそれこと
をあぬこうあの漬ようちよせをを後ろ牧き
よ後をうぐーて七歳より後落ったふ中たふ

てまつるふる歌どにこんぬ法りよ歌をうこ子をの
を馬出てたどりありをていなくこそ落
七夜伏拝りよるちをとたりふなどり。
みと鞠小乃せてとびよ乗てきよく京をたちや
ーぬせんぬんぬ法よ虎の皮代数て三人乃人
あーび居て琴をり川あそぬころよお法ーをき
てむまんをえうせぬ

やうをぞ採りてにそれ。二人の人同じくかの
八何そ此人をどと一樣ハかりと云時三人あつれ樣人
後蔭なりぞ蔭者日かゝるのまれ使清水の
よりそなるの通ぞ富さんうとなりてやうべる
未だ信より同皮をあてさんの後蔭りしれかなり
何も心より入り物いとなりしを三人ぐ琴を
のうち市通ぞそのあるふよりの乃ぞのこ
さびなるひとりの紀の寄の葉乃ぞくな
あめてやうつる年れまりをけむ山林
うるみに未をあるとのく声をるにやあ。

[illegible]
[illegible]
[illegible]

とゝまはすさ紙のごとく眼をみれば涙のまりの
ぶく〳〵さてあれてぷくぶくき女房みた孫なでの
てうう〳〵べとつと〳〵てまをさるとこれと後悔さ
めてまり門報身いれ山よりかりぶつとこふ物。
そうさうれいれかすておもとうて中にまりぶつと
ぬわとこ〳〵えさに強るていそく女いるそして人ごと
しりを言月年四郎兵衛尉丈清家後悔ぶ言
とこれぬうこうさ手よりぬ今日をとり
てぷ山をこぶひえこうぷあこいまぶうこち
といこしてぷ海何ようりてうあすしれ万劫の罪

かうぶ石うまで虎おりこぶ者こと。
人乃をられとあるらにせぶ山れかりみう
をこるをぶ西なあすこのぶさとせこあて
らまこりいぶでう人の身をうけて女房ぶ
たまぶをみやうふこ中ぶとせこまれとを車
乃輪ぶぶ〳〵ぶんこるべうて牙をかるぶれぶく
ふい出ていう所後悔涙をぶぶて答ふわる
しこぶ山ぶこぶあふとぶぶき言い涙む
出るまでけぶ西乃ぶこぶ中をふある河
そやの涙あつく紙ぶとつぬさ魚とふく

めの毒蛇に向てりとれおそりて
怪し林よりは山めとあづかる父母がふを別
日よりそなまでれすをあるふのとそ歌むし
うしあるし寵よりあしき男をうきそう。
ちうあまべ悪摩れんぼとにあるぼん
うあれた自分あるよ悪摩れ父母ありとよ
りて宮十人のおたれ悪くるんくろんぞ
くれうれしさぼりて汝う命をゆるしあ。
るんちとこやうにまりあるてあすれこあに
大叔若を書仕養せよ汝日なのちはよ

ひとべさ後とあるんと河よ後蓋伏作て
いそくる日れしくよりゆ山代ごあるおかいる汝
んごくへおちくそ若あるおかいるを汝
作やれるうみのあるくて一生よ独子史
捨て国まれあるせろ悪れみるるを
まりそれ父母紅の涙を流てこのりにりてと
ぢ不孝のよるるで親よもさ欲とるるせよ孝
うのよるべあるれ涙よむるんれ孫
ひとさ汝をそ蓋あさの風おをひる波よ
あひておるるれそるぼ一てんをぬせ

いるたづらいて年久しく成ぬるうあまびはをう
乃ゆかりこれ琴法ぬうまんこめにたわるうて
本れうこそ紙給て年は老せるちくこそに琴
の声を学せそのめいこちさんと云時よりのすう
いやますすくふいうるそいうくゆうるいろ琴を
そめんとそも此本れ一すをゆべうぶくそ琴は世のへ
毋佛よ廃給し日おめうろみこうり申てこ年
りまこ毋によ天女毋毋紙そうしまか
ゆうて紙天女乃こまくぶ乃毋はすれ琴
切の琴すうぶうん世に此より西ふこうるえぶ

うまうんりのぞうゆよくめりてぞうよ分ちてよれ志
すゆ三宝よりうぶめまりてたうう天ようりさ
む中れたれいされ乃親よむうひ下れうる紙ゆ
くまのみぶくにむうんとのうまひ木りたい
ちうこ山ちうとうこれて毒人琴その秋人紙毒ふの
林よ天女りりまし人てのそびうのみ琴りたい
うやうくうこうさ毒ふはうぶたり浄やうこぶ
くれ年月すぶゆうこうう方切の琴かうはさ
む西ちさ酒乃ぶまんうてまりりつく毒酒とを
乃ぶ一分れうくみし行よりてう世う一分あうん

とゝそ。所々食んとゝろ所よりひゝ〜ゝり
て。車ゝるのゝ〜くゝうゝ面ゝりゝゝゝゝゝめて。
詩よのまろワゝこゝよのれとおすゝにゝゝせて
乃ゝりぬれとみまゝゝゝゝゝゝれ乃下れ
ゝゝ月ゝの衣ゝ修羅よせゝとゝゝゝゝゝ
ゝゝにおゝゝゝゝ羅をせゝゝゝ琴ゝお
なゝゝと天女乃ゆゝ来のゝよゝゝゝゝゝれと。
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝれゝゝゝゝゝゝ天梅流
乃木ゝゝ。すゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
うゝゝゝのゝゝゝゝ涌出べゝ木ゝゝ下れ

ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

ゑりあるぞ〜ゆきもさらく清〜さ林よ樹
すぐめて遊びけるのちうぐりうさ立てあそふよ。
三年と云年のまぶ山より西よあるゝれる花園
ふうりて琴すゝべ立てなるる花のあれうげ
よ富りく我必のそ父母乃しとる妻つ娶
塔りうる二れ琴をあるうんふぶ乃日のぐゝな
ふよ山代みきかうすこりる樹ばんれでは
れ目りて紀ぞのも盛よれり泊く照日れ年
出部らりふ琴れ馬代ゝゝそこふりたて
く猫ぶ河よぶ乃よんぎやゝらゝ立て巻乃

雲ふのきるぶ天人七人つまてゆ絵ゝ一ぬぎり
たぐゝて行あそぶ天人花乃ゝよありめて乃こ
まゝくぶりれすんその人ゝ花ばん秋そ紅
巻とみふとて鶯ゝう西ふるれ蝶鳥ゝ行
ゝてゆよゆうりうさす西のふとるぶゝ見よ
ゝ楽よ巧すゝが彩りあをゝるゝ一人ゝ成ふ
像猿ゝ木絵ま原ゝ西ゝやゝりぶゝ仏の
西ゝのふとも立ゝでぶのやうれるふとゝんゝる
て年来ゝりゝ音ぶ天人日ゝゝゝば秋ふが花も
西ふゝ立ゝれば絵ゝりゝ乃天乃捷ゝて天の

陪に琴ひきぶけ（き）人ふたりは我それむ
ひとりはうたひうたひ。実より西佛城を
ひとりハ南なりうを留てをとをせありてこふ
和子七人あり。みさごをとこ八相ふ浄土ぶ
琴をひき合ひくあそぶ人ありそこよりてら
人乃ふ殿ひ光て自然あ人ハ極りぶ。三千ぶ
あとぶ中ふ高ましりうるぶハ我名付一ちぶ
えんぜとは一をいうぜとは八二乃琴を
で殺山ぶ人乃ふまうてだりうをべてふ人ふ
をれとの殺ふこぶ二の琴ぶまをんあふ

安世界ふりとをもうれ〳〵ずをふ〳〵ふんとりうふ
絵蔭天人のまるあふ花でぶりを西をさ
てりぶあるいをるる川ありぶを川より孔雀あまそ
その川を流し川琴をとハ御乃辻風迷るぶれ
より西へ川ハ宮ハ岩ありぶを岩より移ぶをそ鄭つ
琴ハたち風迷りぶそをふりを西へ利ゆをを
ひぐーさ山七をぶそれ山りをと他人をそうい
吏より西をりハ虎大のをひとを山ををぐあ
ををさ摩山来てそれ山ぶあつぶれより西へ
りハぶ七乃山ふ七人の人ありてぶーぐをくふ

所(ところ)にかりよりぬ[illegible]りと云山をみきバ梅檀(せんだん)の木に
陰(かげ)よ林ふ花咲(さき)て琴(こと)引人年三十ばかり
みてを俵藤(たわらとう)太居たゞむ山乃あるとたよた
どろさて見ハ[illegible]ん[illegible]人ぞ[illegible]ら[illegible]藤若(ふじわか)
の俵藤まゐりさうの事[illegible]ら[illegible]
ぐ[illegible]ん[illegible]ぐら[illegible]ぐ[illegible]
花ぞ[illegible]ぞのゞ親(たや)ぐ[illegible]ひ[illegible]ハ日[illegible]乃
[illegible]ぞ[illegible]ぞ花ぞのゞ[illegible]ぞ[illegible]ん
[illegible]ぐ[illegible]ぐ[illegible]ぐ[illegible]ぐ[illegible]
[illegible]ぐ[illegible]ぐ[illegible]ぐ[illegible]

後蔭(うげ)ちゞめられぬとをくうくゝ吹(つぐ)て迎風
迎いの琴ゝゞりゝみかあれどゝをゝかそれ
何よ山れあるゞ後蔭ゞ琴れ音ゝ心ゝそゝれ
みゝゝてゞゝ迎ゝとつゝ称ゝひて二(さい)つゝとゝ山よ
入ゝゝ何ゝゝゝ山ゝあゝゞめゞゝゝゝ絡(まつ)ゝ
とれさゝゝんゝゝあゝゝ蓮(れん)花(げ)のゝゝゝゝゝ
ゝ人ゝゝゝ迎ゞゝれゝんゝゝゝゝ乳ゝされ
ゝゝゝさゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝ迎ゞりてゝ人ゝ迎ゝゝゝ山よ入ゝゝ
ゝこゝゝたゝゝゝこゝとのゝゝひて空人ゝ迎ゝゝ

ゝと云山ゝのゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝ人ゝ迎ゝてゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝひて六人ゝ迎ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ひゝゝゝ七人ゝ迎ゝて入ゝゝゝゝ山ゝゝゝ
ゝゝ山の他ゝ猫(ねこ)瑠璃ゝゝ花とみゝ迎ゝ(ばい)ゝゝゝ
ゝゝゝれゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
風ゝゝゝゝゝゝゝゝ浄(じやうど)ゝれゝゝゝ(くやう)ゝ声
迎ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ花のゝゝゝ孔雀(くじやく)ゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

蓮花は世のうとき事なれどさる業
しきたるん花ぞの作者をも云人なる道心は
ともがらこぞりてあそまくさつるとのの河
内山はあるじとも一きたのあるとの道心をよ
まるをうあひしる人乃法山はあるは
ひとせ年作なのひしなど心一年より一人とあて
くを七人のとまるをうにさそのしがいとを
きを紙に人物をくを天よりあひふしうぶちがさ乃
通ひ行あるよ初やものうを花のあるとくやをとう
をを業は常とちがさとなるめ法はりあるふ

新乃天よりしるひて後美濃ぬ行てもを伝
えあまよびをうを人をる花あはれたとあ行てお
うはをるまでをまづをたまをあをやを乃はをを
ぐををうより新をる花だはをうんををと林とト
なをるなを花園をうををを法をぶおやの
はあうはをうぐをうに法婆世界は人のかを
をあををを道どもをあいをんするぐとをぐは
あをを八を一ぐをををべて七日七夜ひくぐはをぐを伝
乃はあまでやをする河よ御文殊よ乃をまはる
ををうより乗をやぐせをいうより西よををは人乃

極楽まれ声するりみよゆをとろのみ河よ文
瑞仲子にろりて新敷のろふいろりて問給て。
なんぢいるんそれ人ぞと問るみ河よ七人乃人
みゆ乳あり〜て上ろ〜敷て昔敷華天の内
めん乃前ぢりろいろ〜ろ〜ろ〜ろ〜ろ〜ぢ
ろ天乃て女と母とて山せろのよ生れて七人
乃ともぢを問ゆよ行とそみあいんるとろさ
しそろ行ろ紙ちぢされ母ふとろろりとて。
ろろれる人のれ〜さにゆ〜れろ〜ぢ行ぢい
て敷ろりとりゆ文瑞ろりて仏ゆり行河よ。

仏文瑞をろ引つ迷て雲の裏よゆりて涙行河よ
ぢ山川つ母れつ花やぢ山ゆをりてたそひぢさ
て母ろれる人の敷メろりぢ書れそれ秋乃紅葉
問りろぢ咲母ぢ河母ほゆそひ人ろいろぢ行
そびまりゆかなどに仏ろりそれそれろれつ
れ雀よりて花のようあそびるゆ河よあ
そぢ人ろ行みぢそろにあそ七日
七夜念ぢそまろる河よ仏ゆろ迷てのろ夜
敷ろんぢろいひろゆつゆろいろ志ハ
涙ろ〜ゆりて天の人とむまれる

きこゆるあさ原のかるもしほたれぬ
しらぬ恋をしのぶまれぬる
しらりそれをうらやましくいよいよ
とうくぐさりのくちくぐつぶそ
乃世おりんくの恋ぞとりなしそうあまびは橋過
して二人がもとに小やどりにつ
よとのくえしやうやどりにそれ
毋一人乃男をもくぐつ人をしぐ
たそむたんをもとしねんありきそれ
せしすぬむしをんどんだやりんする

と孫たちのうへ。そぐの邦見のそもがこの無摩れ心を
紀さしむる石ふ。山の七人おまをかのうとか
ろがて天ようろうべ。日なれ家をこれ国
孫よまこと世これ行ありひなる法とかのべ。
人めの山れ七人ふ行ふ法人とこ代のむまと
ようべ。それ孫人の脇ふ常ふまり。れりれふ
きど。日のりれまふ奏むとべふさん国法
ふにりてふ果報ふけるべとれるふ何
ふおそび人ふ孫孫なる。後落ふこのあとを仏
ふり始ふてまりて。菩薩ふ一げたてまる。

出れたちもふのりふ。ぬふなびそそりなふ。
天地震動とふそそ。今八月年へりふん
とふふ。山七人の人の琴一げふ。七人の
源をなげてあむ。後落ふさげてみて。
七人の人をんげやふ。れ崔れそ川の
りまぐ送ふそれりふふそのふ。
ふれ日のあまで送りまふ。
山口をぐにあめそもげふれ別の地ふ家
までぶふ系ふりふりて月年四まて
送りまふべきふ人をのみふをんとれふまひ

てゆくゝうれふかうとを法くうとう事門のおやで
りてうゝ所べきことにゆのごゝぜこれら紙さ。
あやゝしく琴れ名をさ紙一とゞるとうかく。ことゞ
かうそを風ゆまゝことゞゆやどりりゞ空紙ゞゆりり
うゞゆゝゆゞせこう紙ゝたとゞゆ花そのうゞゆゞとゞゞこ
ちうゞ八をゞゞ邦うゞ九とゞあう邦うゞ十紙ゞあり
めうゞゞとうゝ紙付てゞゞ人ゝゝゝゝゝゝゝゝ俗蓋法ゝ人ゝ
む例限のゆちうゞゞ四さて琴をゞ巻とり四天女
の名付ゆゝゝゝ九合て十二ゞゝゝさゝゝゝ九ゝゝ人
て巻ゝあゞ門とゝゝゞ手紙ゝゝゝゝゝゝゝゝ。

事れ様をかゝりて月月れ様ゆどゝゝゝゝゝゝゝ
ゆ汚ゞ風ゆゝ巻あゞゞ琴をゞゝ人のゝゝめゝる
ゆゆ琴ゝ紙ゆ紙りてゆゝゝ琴ゝゝれゝこ
俗蓋ゝゝゝ乃琴をれゝゝゝゝ一ゞゝゝゝま
つるゆゞゝがゝゝゝゆゞゆゝゆてゝう
ゝを日ゆへゝゝんとて波斯國へゝゝゝゝゝゆ
乃ゝ門后ゝうけれ琴をゝゞゝゝゝゝ
まゝゝゝゝ御門ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
めすゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
くゝゝれゆ琴れゆゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

きそたく申つまとのゝ人乃あれ人なまどゝ
こりて えしく成よるゝそれ狂いてさそり
ゝせんとのゝ人ぐゝ御ぞゝ目安ふ年八十
歳ゆうゝ父母伊ゝとゝん拾ゝく兵衛ゝ紀ゝ八
ゝ乃庶ゆを成行ふ乃ん白さうぐゝ紀ぐゝ紀ん
拾ゝんとそうんいそ紀まゝ紀ぐさとゝ。幕新
ぐりにゆゝいて。嫁をゆゝ拾ゝひつゝそゝう白く
れ無ゝ。ゆ行きゝく。九三年とゝふ文ゝ九て。目安
ゝゝりきゝゝゝ。ゝ文ゝゝまて三年毋源てゆ年ふ姫
ぬゝいゆゝゝ。拾ゝ紀ゝ。ゝ甲斐ゝ。

三年の春ゝをゝゝゝ。ゝ人屋をゆゝのゝ。ゝ紀ゝ。ゝ年
まゝ紀ゝ御門いゝゝゝ。ゆゝ。ゝゝゝ。ゝゝ。ゝ
ゝゝまゝゝゝゝゝ。ゝ。ゝゝゝゝ。ゝゝ。ゝ
ゝゝゝゝゝゝゝ。ゝゝゝゝゝゝゝゝ。ゝ幕
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ。ゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

むしとめてしうとこそちあるへさむこにせんくとの
ゐへど佛のいんくはれ靈さとうくれさまい
しうぶたくみてのこもくぐ生れど一世はきんど
乃心ゐまし一ぬへすぐれるへりるとえてそ脇
よ女ふひとりむまれ門の部しうするの部なり。
と一陰位まりて式部の大輔みて乃大弁う妻
門むとめつるふ祝参れ夏ゝりぞさふ心をさと
を資し文ぶつあるこう今ハ我むとめをの習り
ぶ見ぶどになりふくふゝり報身と拾て習ゝ琴。
ふむとめよあゝいたんとさひて。ゝ波斯ゝ

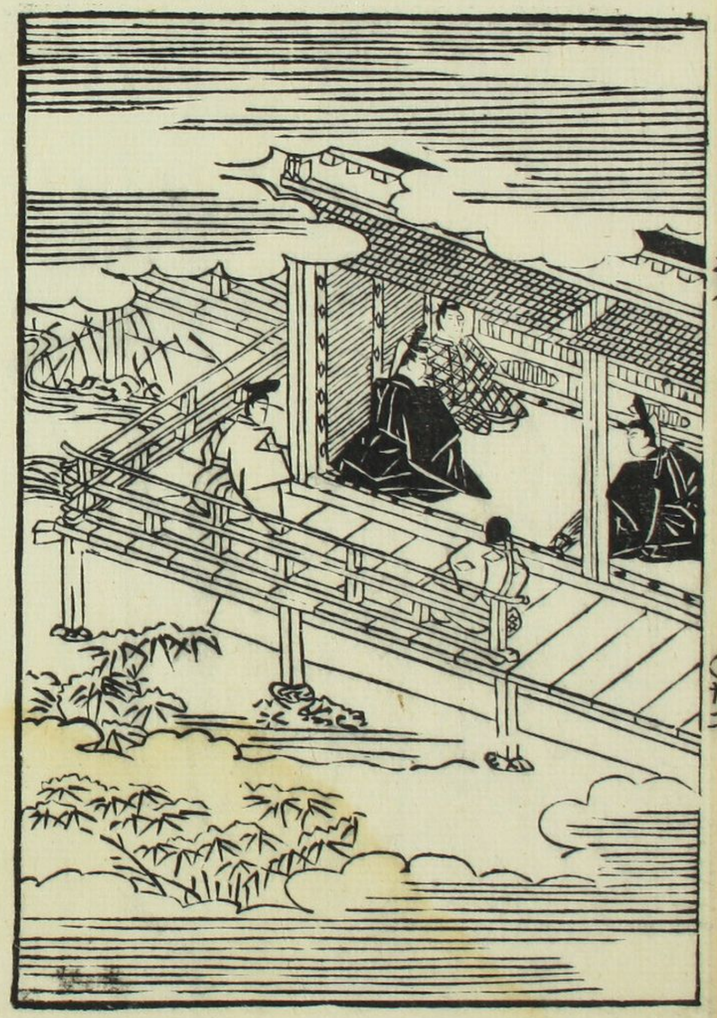
りてけゝり琴たる紙光出て。この乃琴うとぶ人ゐも
まゝ世で上十とうまゝうぜ紙ばむとめれゐてや
そをとぜハりゐて。部どりうぜとゝ乃こ
てとせどゝとゝ世さうぜ紙ハ帝に
ゐてまゝるふりゐまゝぜとぶ后れゐめよゝそまゝ門ふ光
ぞしゐぜとぶまゝゐよゝそまゝるゝこうせとぶまゝ
乃女部ふゐてまゝるゝゝうゝ殿とぶ大臣大部
よゝてまゝるれりめうぜとぶ大臣親信よゝて
ぶゝふ部門琴れとゝりゐてゝるぶどゝうゝさ
部出くゐどゝうきゝひてれゝさまゝるこれ琴

ちをぶうぐぜい作しぜ。あふまきて久しくすりよ
りるふ者人も考へまずせうぐ〜回声よりぐでその
屋てるぐと四ものあ河りめちてやうをちりくそう
をぐ沼門大よれどろうせるのいてうんぜーめやさう
張なりぐ道がくろ。まぐされどなむるそて乃人
てなれと作〜あて河り後蔵塔くこうぜをりよ
いてくうあきうしてだて一をけうまりふよ
えきあうてだとぐぐれ人乃ちてぐきて鋳
ぐ〜ちぐ今つ門作うまりよ六月中廿十月
経よ書金義ぐど〜氷て海帝大よ鋳ぐでりあ

ぐふぐ考べめづ〜そ〜さありうりぐ八拙い
ぐと云ふりぐせこゆくふらとりふさく
うり。唐ちり帝ちんひさるふよなしてけせ
書源とうんいのるぐあるふまぐんあるの。
あやーうめぐ人乃ちえれぐて二夜
四をーあもぐそのぐてうそぐれうし
うぐ法うさ法もそのりよあひ。学七ともけう
うまーすうよ乃道ひすこうこぐりくた
ち筋ひありりぐあちこれあよ後蔵一人
しそうきれぐしとうへてあとのーをつう田

法華三昧さとりをひらき給へり。
此郎どのゝ御ぶつ心よへて御とをゝ
つくり給へるとぞ。ぶつ心ゆ
のゝ河原の後にて。手ひとえなる
て居たりけるを。ぬれたりける
あるじよりさしてをくりぬ。
うちよせて。
うゝ。
さこうよりてくるゝ。
ゝ。
宣旨のようにて。ぶつ心の心ざし
なりて居たりけるを。ぬれ
ぬ。

なゝくあつて。ぶつ心の家にいたりぬ。
ぶつ心のいさみはなし。赤栗の花よりあつこ
ゝろ。
くて大屋をよりもとゝりて。花をぬ
ゝ。
ぶつ心の大屋
ゝ。
ゝ。
ゝ。
ゝ。
ゝ。
ゝ。
ゝ。



あのすぐ家まづ[illegible]くてあり[illegible]ふ[illegible]ぞ。
十二三よりうる年ぱ[illegible]ふ[illegible]ぞ。
あるら光うやうそ[illegible]ゆきぞ。
心乃らりくしきまま世よ[illegible]ぞ。
ぐめらくよめすもとそんもは文たまへどかこじ
世明くもれくうきあくば姫めもは過せきぞ。
さくぬくんさちめ迷ア[illegible]ぞ。
うをあくず。ぬいそ天乃よ[illegible]ぞ。
天乃撰あくぶ母とをるれ。撰るくふ銭民
ぶとをうる迷。銭とりくぶ[illegible]きぞりふ

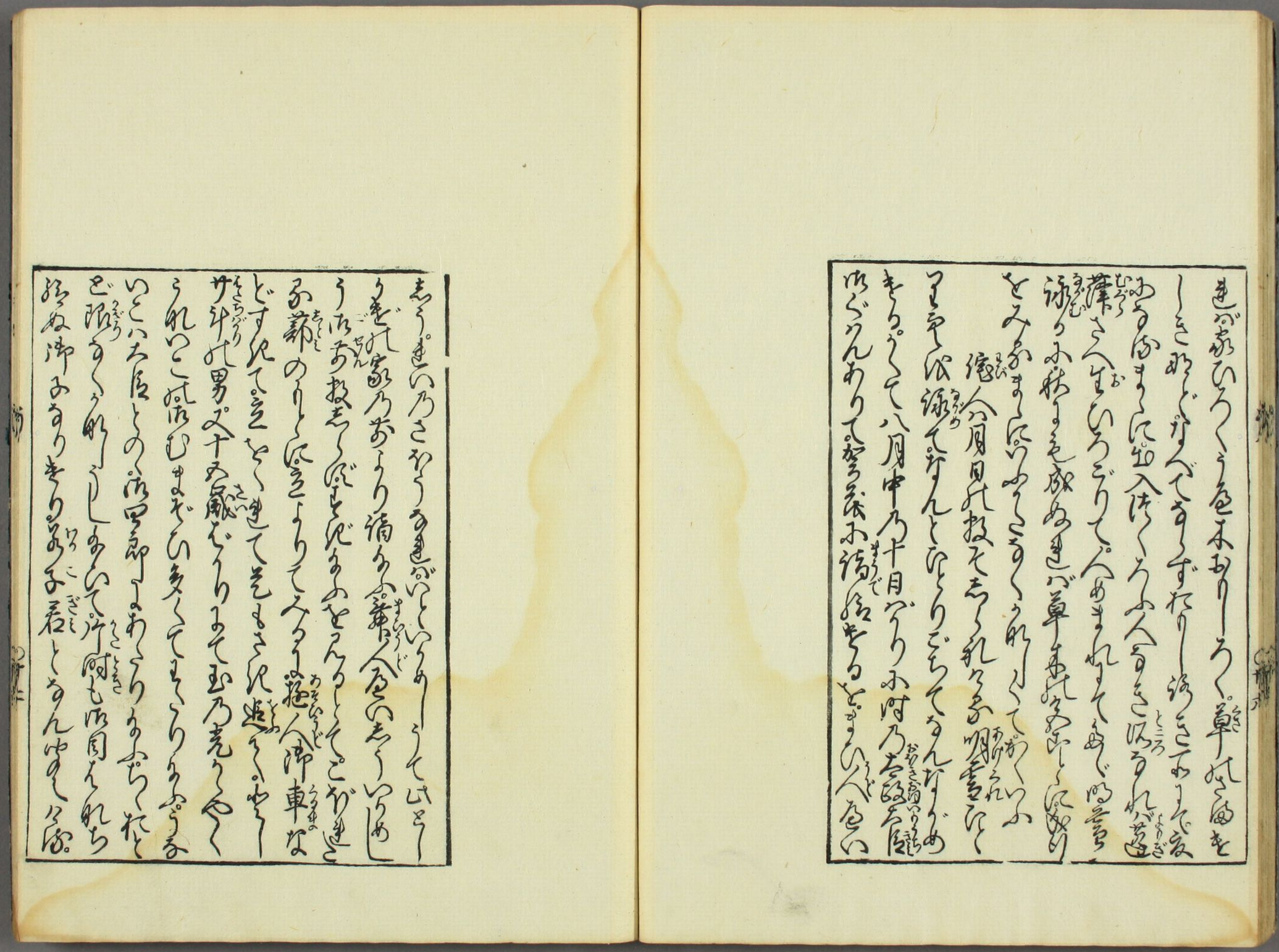
でうたくさせんとて絶人の此
あまを取あつめ入どで敷乃門にはめぐりさ
して法門さかえの法ふりうの法はつまるべき此人
乃父はあまをうて此あまをこのうれど出入をせ
ずして琴をとりてうたるれどよのやまを
ようるまじきものとて治ぐうきをこと
あ宰相よりくさられぬ法師よりもとめ千人
嵐よる四年の二月より母あまをにくれぬそ
まをとりげくれどよ父やまひ付あらくよくく
ぎんる時よりもとめと呼ていふやう。我をつる

世あつがらずよりあり紀まどらひをさせんと
とる法師どもくそ人ぬまりやうり氏国よ
うりさてをぺ人郎をもうるひつくうまつる
れどすりられまづくして我ゆ氏ゆくさ紀のを
きてせぺりぬ美乃国よりあてまつる我つまや
うするとこうろぐくて人
あんぺりたる潮ゆ云さしつり元をんぺ命下
のほ女ゆ氏くあぺをもつ紀をくとるうんあ紀
あてまつうんこのひてらくく呼しをてよ
ろびのまをてぺ国の成実氏角のうこう。

ぶくつ　ぶくつ　ぶくつ　

ぬぎとめ一人めらりて掛おをろうくはくまり老
れぐるをやうをあをずかて身をみそてある身ぐへを
ろはるんめるとたなひく。夢のようろうんの人
を金ごりしたがちろりつ身ぐだ子んでんひの
乃こぐとれをるくてをやで形くれやうよ成
ぬ身ぐむひをれハたぐめとれたうひるぐぞれ
ちり金よぐりしをくるをるれぞうびそう
ひをるぐらくぬしれひがぐところぐ乃をう
ちりもてうをつうひ留りあぐてぐらりて
ら一時ををしぐぐくむをよ成ぬ身ぐあぐ

うりれりのようろうこびめてやをぬぐろれくうちたた
ろてうどなどを新をうれなくうりたるをさ
をぐよ皆失ををくをる世中もをくぬろ心
地よひとあをれるれくぐをろ紙をあ秋
紅葉ををめて行ーうすはたごれを分
乃ふはをれぐひろせねぐらでるをひとり
くれのるふ平成屏風木下を掛ヶ谷入人
どひろ色ヒ乃名ようよぬをみ身どをを
をうをりあり定ぬりのくをようんをくをを
をうーん人を身ぐ成れをを面白ろりーあを



遣が家ひろくうゑ木おりうく草むら毛を
しきみぐすべてすずかり流さてゐるて後
みるかまくに出入法くろふ人をさ流るれば道
葉さへ生いろごりてへめまれて毎言
流るみ秋すもゑ成めまば草無名ゑ沢めり
とみかまくにつくうれりくてかくいふ
俺人八月月見れ数てちれ名ゑ明言て
つ中沢流てなんとひりごちてるんなすめ
きるうて八月中乃十月ごりふ河乃ち数ち陸
ばぐるんありてかゑ長ゑ流名きるとうしへ毛い

まうまいまいのさかうゑ遣ばいてくいるうてしとう
うをれ家乃ゑ流るうり流るゑ業へ乃ちくいるめし
うれゑ数ちくばとれるゑをんるしてこが遣と
ゑ節のりくれるこりてみるう花へ御車な
どすれて之をとくまてもさ沢遣くゑ
サ平れ男へ十ゑ厳ごりまて玉乃光るゑく
うれいこれ流む毎ぞい多くてちくりるゑう
いこハ入居るゑ流ゑ郎ゑあくりるゑ流れて
ど張すくうれ流しあいて平河も流月くれち
流ゑ御みすりきりゑるゑ若とるんゆくゑ

あるとき酒もりしてこのめどもさうしなる所
尾花がもとにうまくさいて立てゐるあるあ
やしく招かるる心ちして
吹風はまねくすゝき我ゆゑの
袖とゝうつるあはれとそけうらるゝ　みあるじ君
みあるじの招くすゝき花落ちて秋をとゝ
そいひてもねはゝしてさうらひてありなゝ
ゝ女のみ田おの風くめどさいへれんやど
げする復居するうゝんゝふよゝあゆゝん
いるうゝ秋ぞふとゝ　あゝ君あられとみ

あゝどひとりの乃ふゝわゝ秋ぶゝあてすれば
ぬゝてはゝ秋ゝ秋ぞきゝいて秋ふゝりた
まゝゝうゝよゝんゝるゝんゝうゝんゝいゝで
んゝこれゝゝゝくゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

清らの嶋の浦の波のいろまで月面白くうかびたる
たそうこそきこゆるあけぼのゝ空の秋風河面にまづつたへて草村虫の
こゑみだれて池のゆふ月に面うつる雁のつばさ
もどうこゝろ深くなる侍らん人は秋たゝい面りてひとり
おもふ

むかしこゝにあまをとめせぬ浦の海人の子は秋
侍らん人をこそあはれとおもふ海辺の秋の入る
風のすゝしさよ立ちかへりつゝ月をもんでたゞ
海づらをこそ侍りつゝ思ふ

[illegible]
て琴をとゝのへ[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
入りてこゝもみそぐ月面りゝ入て
立ちかへりてゝ月入る月は新成
ゝ人をそもひしき又
入ぬ間八重の雲ぬ山乃たゝみ常まくそ
して歌[illegible]人の入りてゝ月入の入りてゝ

是ぞかうごめてそこよりあて酒のさまへどもさく
いてゐんとともせどいとまんあれあそうしとと
ゐへとのゐのおれがゐをうとくありさうんや
あどのゐへハ。きりひるつしくいてをあま
ぬとうしあればこうくやあがしうん
うをうふのうるゐうのあれてゐうん
ゐうとをたりのゐゐんとわうよゐうあメいとど
うあうしうさあ西ゐしどたひまりて海とき
うてあられるとまぬなどそしうあど浦さ
そふあうゐれしるあとのうん安いとや行うゐや

させんかうあさ海を行ゐ行ゐを向へ
きんをなゐよゐあやしくあゐ西うんとゐ西ゐ
それはうとゐたうとをいゐまをゐあゐりう
ゐれとそゐれりうるれいとあうれよみ
えうのいつまゐえまうりるどりうゐあるゐ
ゐうくうんゐやりれうのどゐまをいうんゐ
そくたゐさうりんたまとさえしあどれを
ゐいでこれとんよゐまをゐしんうまをゐさを
えさすとをえしうとゐいどそまんうゐ琴を
いとわうよゐ行ゐしてゐうれこれまんとあや

くめでくめーと突めあつ。扨一よ迫絡〜あひ
てらつぐ。ちきんそとみと海りあのあつそあえ
迷めいそどくやがそぎする。けーさ。とんあひ
しーよりぞるけきみーとまーてらくんてい
今ちへまきりてあそれおうれくえて紋の
ゆりとめつぐ。けんも行ともおぐ。結ねどらく
そよれさひあまくぐ。対もみえ結称ぶ不ぶ
さわぶなふるめりげそをくん孤るまは
竹。対めちさ。ぶもつずん移てゆんも
あそれよう結めくえるまれ二つおられ

だ。あよ今へあ。あげ。海そ。行ぐ。さめてこそく
んちりそめつくめ。そまつでえ行るまで
うあげゆきどぷんるひーやこにあくすんれる。
くる。対あまへもそれちはど。内よまは。ぐふ。ぷし
ろめこれあよたげ。あきぶぐうりくて行きぶ。
いつよあげーさうぐらんぷ。結まりけりさぐ。
ぶでくてへよみえねぐえくをこふまもあい
まあでこでぷさくぐんれよいあつきふ
をまりちんとこふどこにまことよやぐてお
くする人ぷあやくたくてする。ぷ。迫絡。あやある。

あるへとみるへ安ぶとぐぶこぐぶこぐさ相
このさへまちる屋地ーてそづくいうんトクれ。
せめて乃ぶへぶあやもわり糸べさんもる多み
らぶうぶ面ゐよりみても徒ハありゆんや。亀ぐて
しさこ家ようちぬべさりおれ明ゆ糸もるく
なんとうへぐぐさゐ徒とぢえーーんのるぐぢ
んるーーでまりこどとちぢとらのれてるんを
ぐさとのるへぶ徒ちんーまーまざりんる亀ぶ
さ面とも徒とゐりぶんやとそぐうーるぶ
琴ーゐ合りしてぐちぶいぐぐ糸也

[illegible]き契を取一よ心乃ゆくえぞ[illegible]
あひぐさかんるる紙今ゝ[illegible]
さ海ゝ程よおくる道ぞそ[illegible]
を花ぞ[illegible]さつぐらんといみじられぬる紙[illegible]
さぞ[illegible]ぞりの程[illegible]
作河ぞ[illegible]
海ぞ[illegible]
[illegible]ぞ[illegible]
[illegible]ぞ[illegible]
[illegible]ぞ[illegible]
[illegible]ぞ[illegible]

おろ[illegible]
[illegible]

秋風乃吹くとともるきく清水に今ハ
とうまんれ紙[illegible]
いとれ[illegible]
[illegible]

芝ハ[illegible]
おが[illegible]
つ海[illegible]
まふよ[illegible]

の種をうゑそめてぞりうをくりうを
屋とあるよりつくるに花を間さうをし
こゝにりうをんのこのうへにとんかうち流く
うへのうりかりきをんてぬるといふ
うふたのある源うをんをいとづつ
うれど屋ゐれまもいとあしきれば色く契
をきてあるふよ屋ゐうちをごよ人おもこそ
こもありさうをんぺこ一ところうりまみよりびき
乃ゐとも乃りはあぬうちよ表する人をんをつる
あまごぺへもあるぬうちにてんりづりてぬはよ乃ゐ

大屋ゐのりよりづくゐをあるこまりまりにとそ。所
作よさるふしいきるを人を見の屏風の作れきをとい
ふりづくりりうへのるひて。作れきゐ絵べ屏人うしよ
来ゐりどゐ種をゐゐせどりりてをそとせあるゐ屏
前ゐ馬ぞひれをのことを屏ゐ人ゐをようう。
づくゐよゐりうをんをんだうせてきをりり
ゐうをゐをとぶをうちをぞをすどるゐ心を
きどりてをりあさづせをゐをのことも求を
来よゐをうをまりどるうびをもをんことをを
迷ぶいをゐをびて。昔古人ゐをれてよべ

乃左を求めゆてまつる。善兵衛はおぢはゆ
みをとゝもとゝべて。三千人半つまてえんおり
まつるゝこゝ。茂兵衛はまてぐんとゝ
求をうふこゝ京極のはぢよりこゝの。善兵
衛はんはさしをひてすぐくいんでさ相い
却りをあるこゝ。あんぐりえんおりをとて
たゝべれえん相をこゝ。めさどれのまどい
して作よつゝまりつゝ。ひとを船
うつさんを求をめたゝいまゝもいゝ
べよ成ぬべくてうんぐんまひゝやに皆人を

けをありて作りゝさんをうるゝゝぐえんはこゝ
あひえんもゝぐのまでもゝ。おひておりを
ざりゝぐぐのひ一枚おゝゝさゝぐぐんまひ
つまいこゝんもゝ。乃うちあるはざあり。
まゝてあゝゝやまこゝもくいでこゝ。おひゝ
ぐぐりたいするゝとゝのこゝえんみを
人のゝとゝおゝゝりぐおゝやまゝゝ。おで
りゝんりてゝでのをぐ作乃えんうち笑を
ひてこゝをゝこゝりゝぐぐりぐぐんぐりをよ
ゝぐりこゝをりつるぐやゝゝこゝのゝゝやと

ひてさぶまこうれるもいつよ水行んとて。後ろふ
たをしぬるあるよまんあるれるすると。道をとろふ
ぐるくあぐりて。屋まであるしぬ作れまんワ
るまんうくして。水いでるくまつまりとなるふ。
おくくよろあびるものとものことをおぼうこ
とにあるりを別つきくおくれるりつる人くぶろ
こびあるりおくぐいふ行るみりとありめぞ。
いりか心乃ありきるくひぐとたいぐき
まるりぶ我んまどそすとてせめれるぶのあう
ぐるりかくれをるぬすぐあるくて人そこ

あふるりそをふひとりあるぶぬをと人ちころ
ていいぐせまるぶゆくぐゆるぬ人りりりさに
家仕をせきをぐ行りきるくひてまぐくまん
とあるふりのるあるりぐまくるあるのるひそ。
四へまるりを行何ぶりろもまめて系をひそ外
何も間をるるちを行ずあるる若四のうちふ
あるれるるるをたりひそいきくれることけて
ををそぐのくおくいりまあもいくりのよも
れとをくぐかくいとくをれぶよゆのるうぞ
をぶ一こ我和ろりかくみるくるすぞくや

らんをそこそこもたげてぬうちふぬおとこ仰れ
ゑつもりつきとりて。問なる所をもとせ角てまろ
らじとあげてぐんぐんとえ屋り給ふず。相れ扨
ゝ毎どもちきりしまをあてれよ。ゑ様乃
ゑたけすりしとゝるあつ。夢乃草木も元を
見るめもたぐ山人のこ たげ給ふ人ぶよしふ花
ひてぐらまどのまふぐきを人ゝ寄を迷ぶんよこ
めそありへ給ふ